

## 編集 後記

8月は、熱中症への警戒が呼びかけられるほどの高温が続き、台風による被害が毎年のように起こるなど、保健・医療関係者にとって気を抜くことのできない季節です。また、新型コロナウイルス感染症の再拡大も懸念されています。そのような中でも、平和を祈念したり、季節ならではの楽しみを体験したりし、心を穏やかにする時間が持てるとよいと思います。

今号には総説、資料2編、特別論文の4編が掲載されています。公衆衛生は社会医学ともいわれる通り、いずれの論文も、社会で今起こっていること、近い将来に起こることを明らかにし、課題解決への展望を示す内容です。また、著者の構成をみると、公衆衛生の研究者や実務家と、臨床、教育、保育、文学などの専門家との協働であるものが多く、広範な課題に応えるための、分野を超えた連携が着実に進んでいることがうかがえます。

町田と井上による総説において取り上げられているワクチン躊躇は、世界的な社会課題となっています。対応に苦慮する関係者は多いと思われませんが、本稿には、科学的にアプローチするための評価や対策の手法が開発、活用されていることが紹介されており、取り組みの手がかりをつかむ一助となるのではないのでしょうか。

父親の育児参加を促進すると同時に、支援も必要であるとの重要な認識に基づき、高木らは、父親を対象とする支援事業の実施状況を調査しました。父親への直接の支援を実施した自治体は低い割合にとどまっているものの、多くの自治体は必要性を認識していたことを明らかにするとともに、事業を実施した自治体の試行錯誤や工夫の実際を報告しています。

谷らは、職業により口腔保健行動が異なるとの先行知見に基づき、特定健康診査の情報を用いて、職業と咀嚼不良の関連を分析しました。咀嚼に関する質問が、特定健康診査の質問票に近年追加されたことから、今後、この分野の研究が進展することが期待されます。

今号には、第81回日本公衆衛生学会総会において開催されたシンポジウムの内容をまとめた特別論文が掲載されています。メンタルヘルスケアサービスにおいてICTの活用が進む一方、科学的エビデンスに基づいていないサービスが提供されている現状もあります。課題の解決のために官学が連携して取り組んでいる研究の進捗状況、国内外の先進事例などが紹介されており、研究者と実務者双方に有用な内容となっています。

(定金敦子)

## 次号予告 (第70巻・第9号)

### 特別論文

COVID-19を経験したわが国の健康危機管理の課題と展望：日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会活動報告…古屋好美，他

### 原著

高齢者の社会参加とフレイルとの関連：JAGES2016-2019縦断研究 ……竹内寛貴，他

### 公衆衛生活動報告

公衆衛生専門職大学院における公衆衛生基本5領域の教育とその課題 ……桑原恵介，他

### 資料

広島県がん登録情報からみえるがん医療の地域差：診断のための医療圏移動の現状

……………梅本礼子，他

新型コロナウイルス感染ががん診療に及ぼす影響：栃木県18施設のがん登録を用いた検討

……………大木いずみ，他